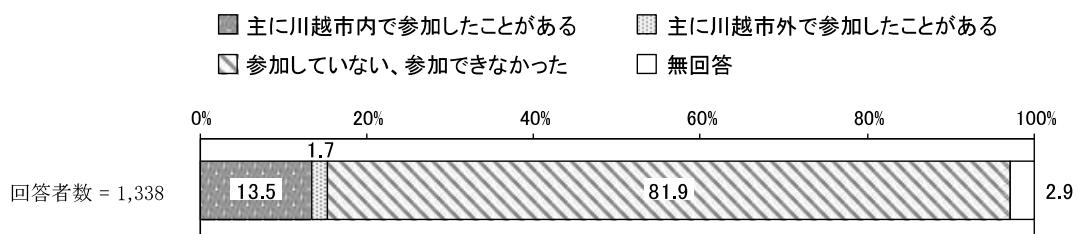


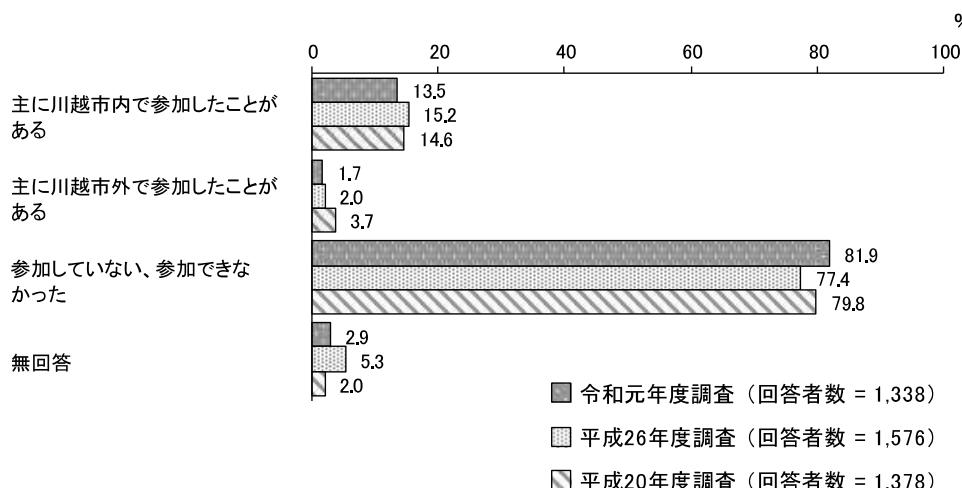
問9 あなたは、この1年間（平成30年8月～令和元年7月）に、文化財や歴史的遺産を保存・活用する活動に参加したことがありますか。（お祭り、獅子舞などの伝統行事や、博物館の講座などへの参加も含みます。）（1つに○）

「参加していない、参加できなかった」（81.9%）が8割を超え、最も多くなっています。以下、「主に川越市内で参加したことがある」（13.5%）、「主に川越市外で参加したことがある」（1.7%）の順となっています。



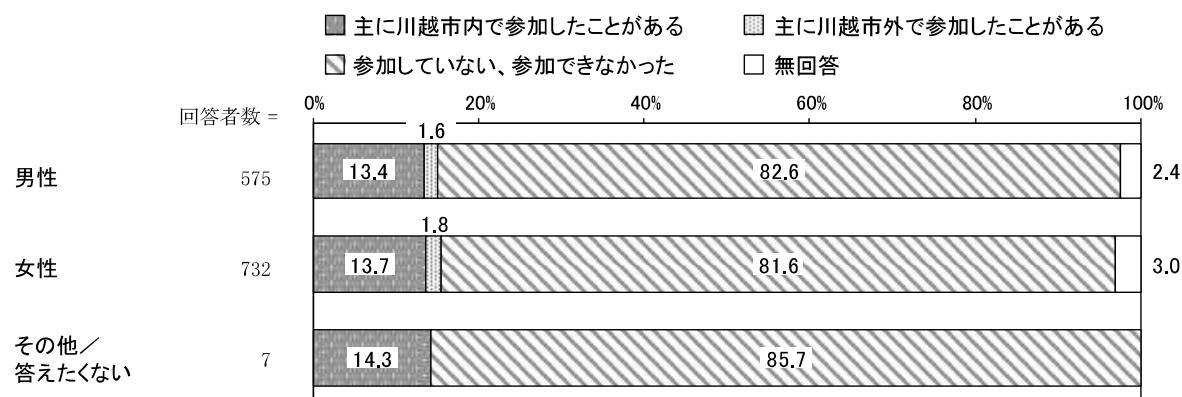
【経年比較】

平成26年度調査と比較すると、第1位の「参加していない、参加できなかった」（81.9%）が4.5ポイント増えています。



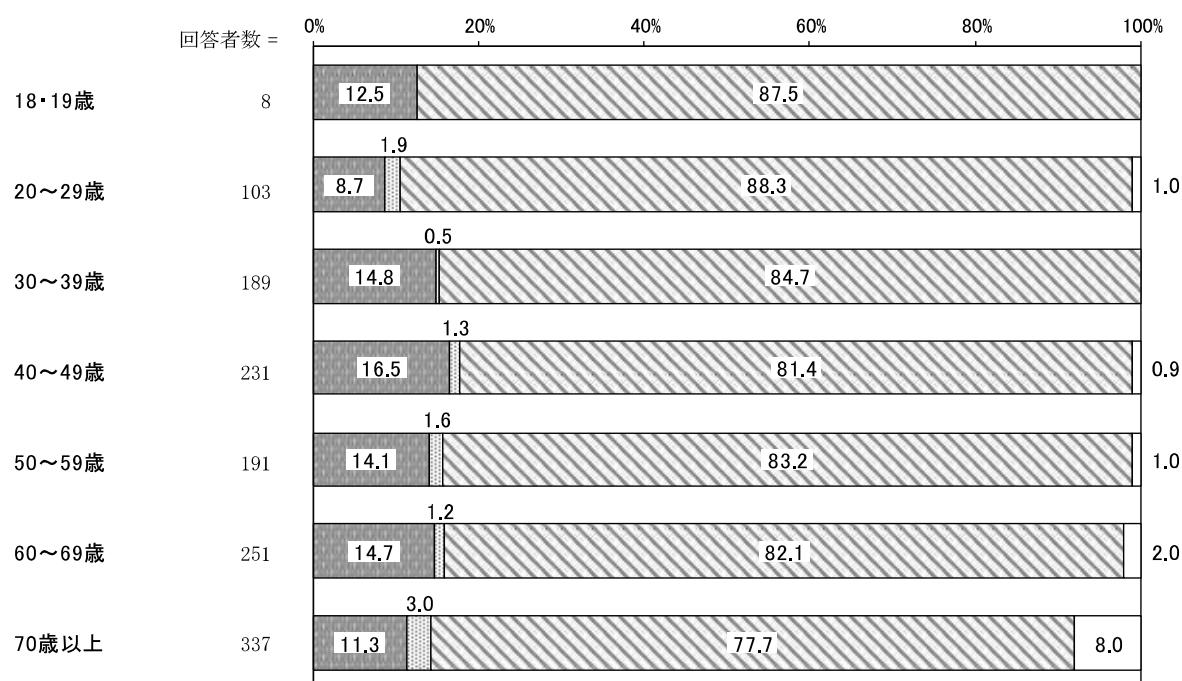
【性 別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、いずれの年代も「参加していない、参加できなかつた」が第1位ですが、第2位の「主に川越市内で参加したことがある」は20～29歳(8.7%)を除き、その他の年代では1割を超えてています。

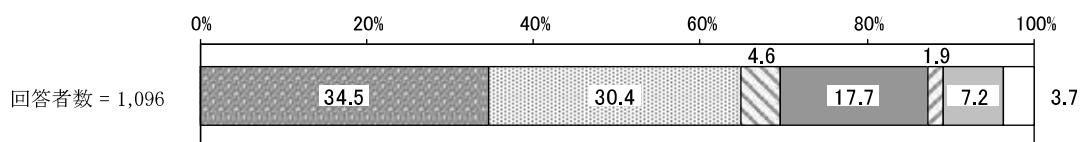


問9で「3.参加していない、参加できなかった」と答えた方におたずねします。

問10 その最も大きな理由1つに○をつけてください。

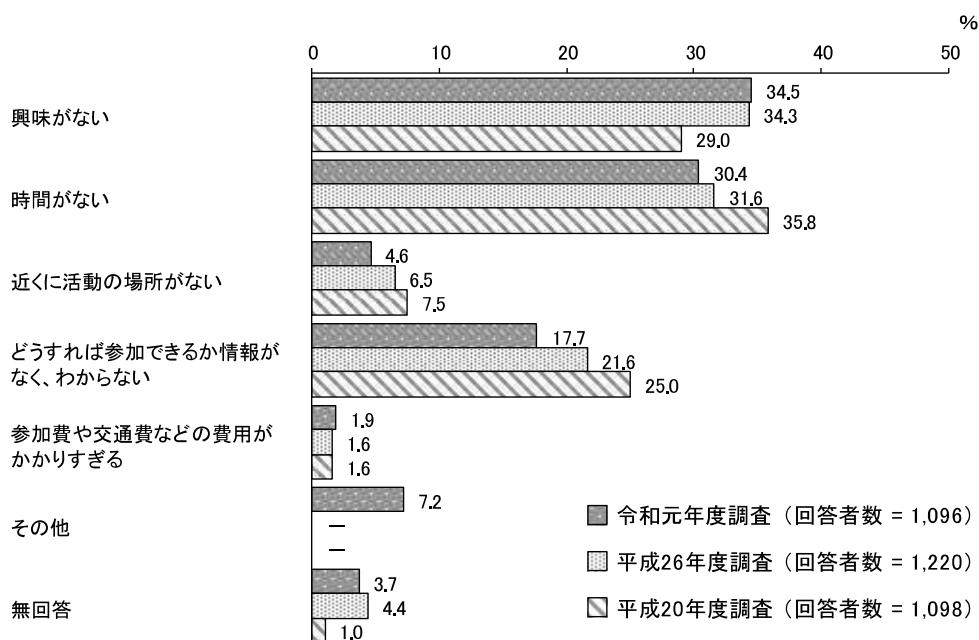
「興味がない」(34.5%)が3割半ばと、最も多くなっています。以下、「時間がない」(30.4%)、「どうすれば参加できるか情報がなく、わからない」(17.7%)の順となっています。

- 興味がない
- 時間がない
- 近くに活動の場所がない
- どうすれば参加できるか情報がなく、わからない
- 参加費や交通費などの費用がかかりすぎる
- その他
- 無回答



【経年比較】

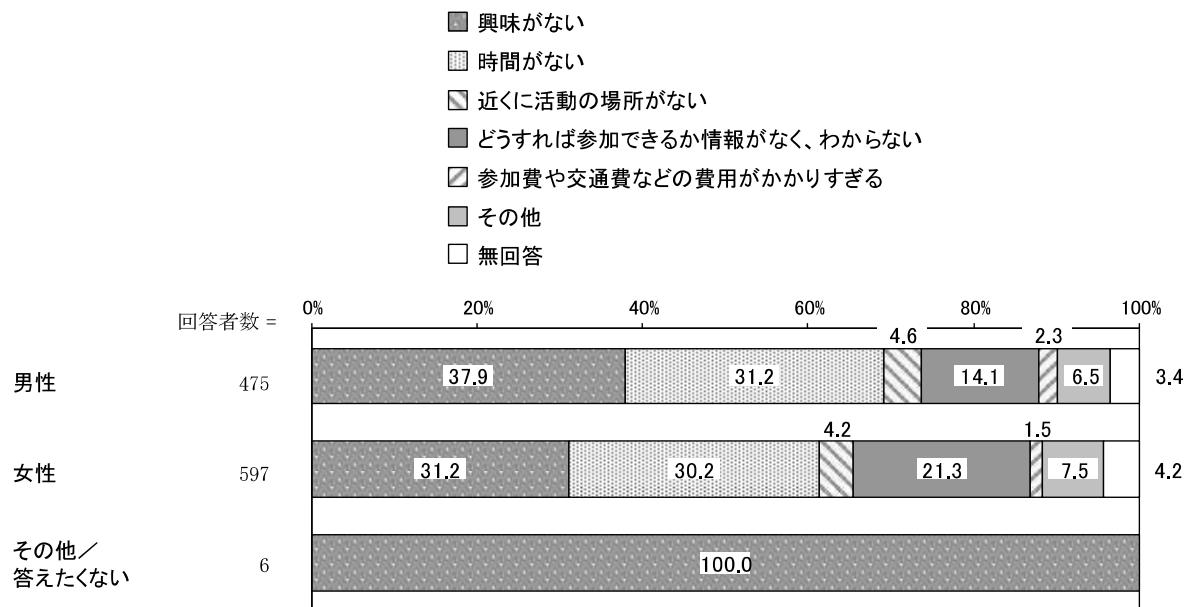
平成20年度調査、平成26年度調査とは選択肢が異なるため参考とします。



※平成26年度調査、平成20年度調査には「その他」の選択肢はありませんでした。

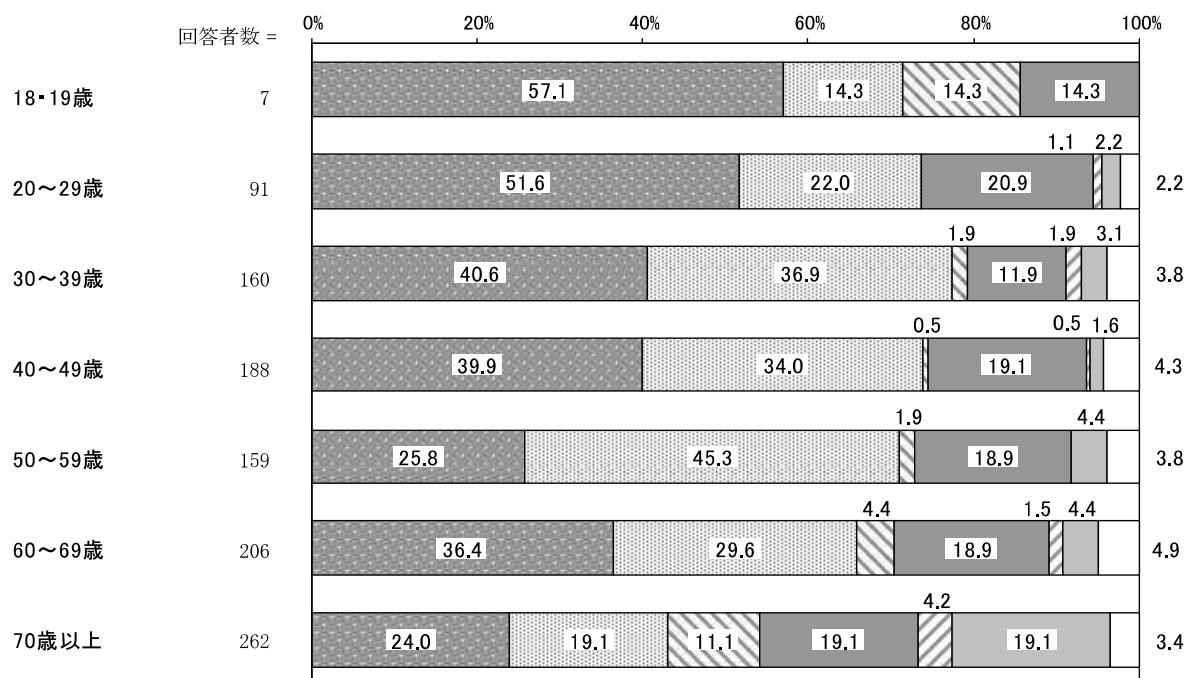
【性別】

性別でみると、第2位となった回答「時間がない」は、男女でほぼ同じ割合となりましたが、第1位の「興味がない」に関しては男性（37.9%）が女性（31.2%）を6.7%上回りました。第3位の「どうすれば参加できるか情報がなく、わからない」は女性の回答（21.3%）が男性（14.1%）を7.2%上回っています。



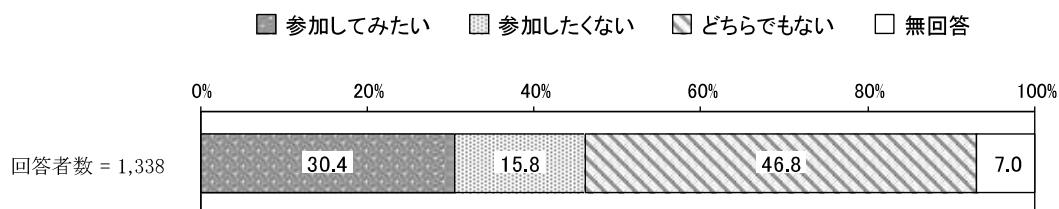
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ「興味がない」が多くなる傾向がみられます。また、他の年代に比べ、50～59歳で「時間がない」（45.3%）が多く、4割半ばとなっています。



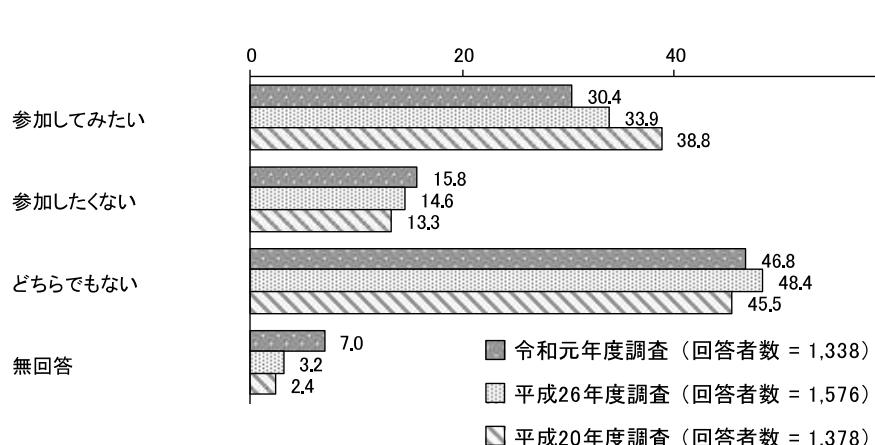
**問11 今後、文化財や歴史的遺産を保存・活用する活動に参加してみたいと思いますか。
(1つに○)**

「どちらでもない」(46.8%) が5割近くと、最も多くなっています。以下、「参加してみたい」(30.4%)、「参加したくない」(15.8%) の順となっています。



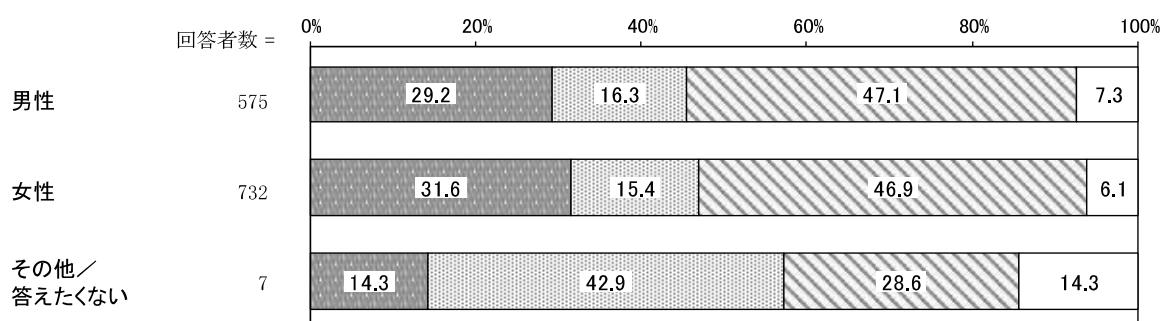
【経年比較】

平成20年度調査、平成26年度調査と比較すると、「参加してみたい」の割合が減少しています。



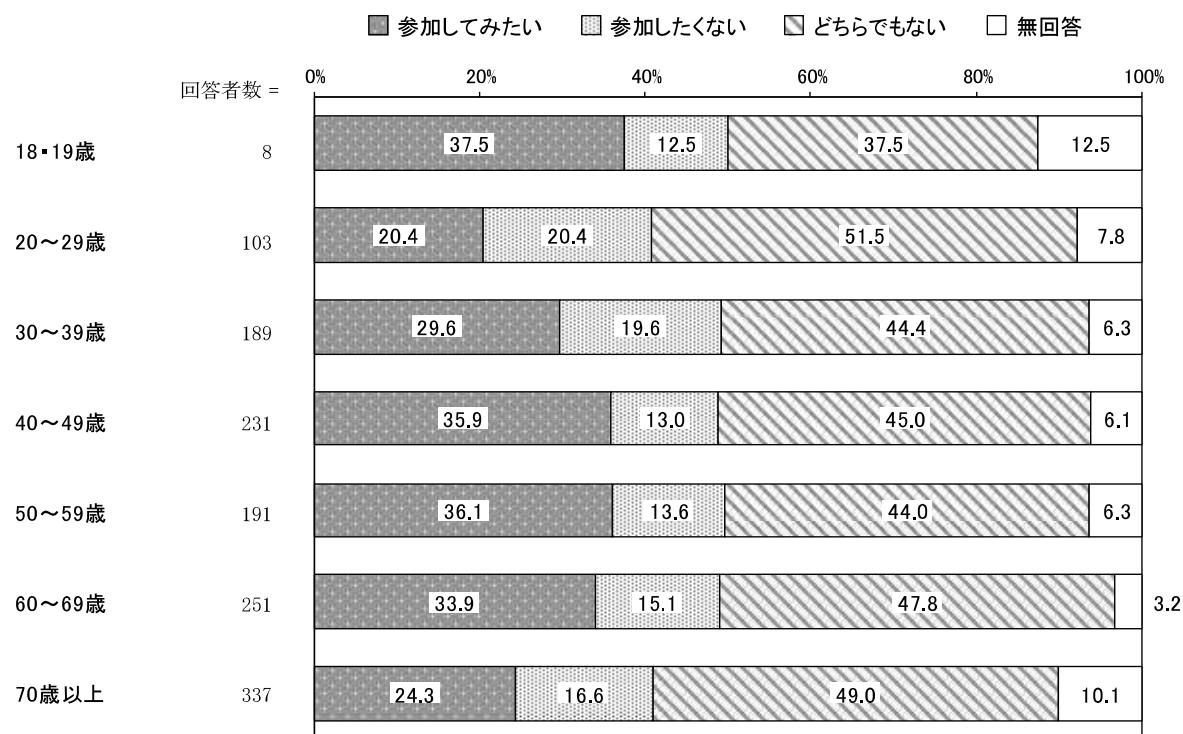
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



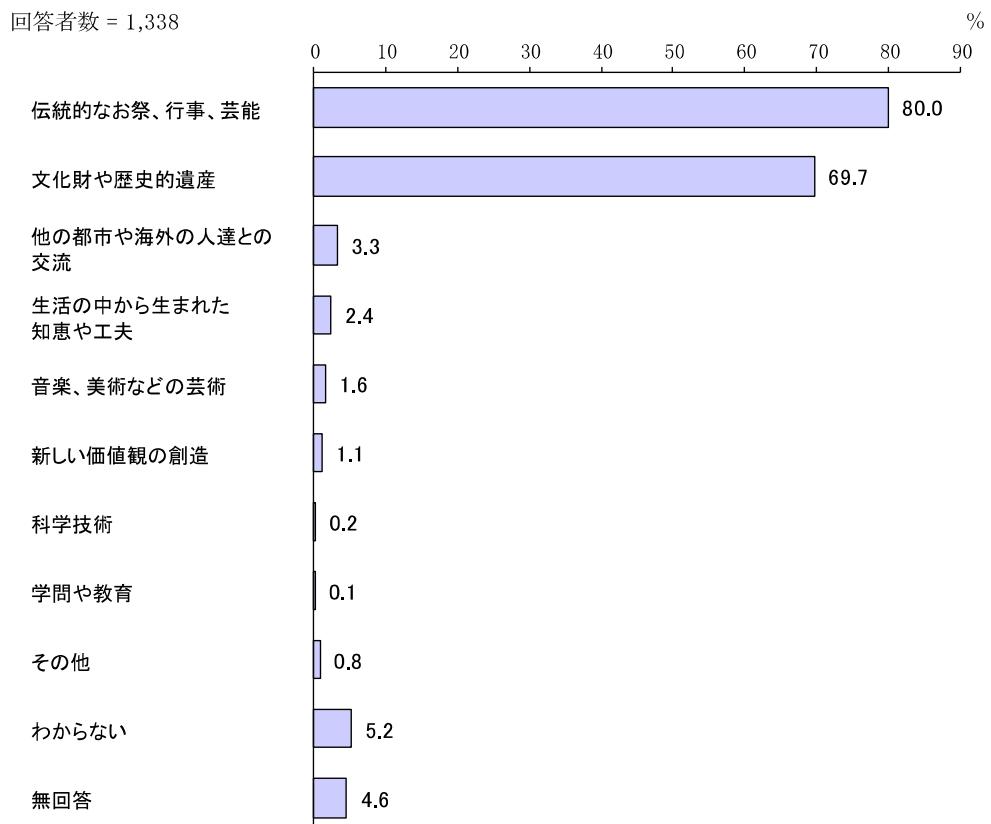
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、「参加してみたい」と答えた年代は、40～49歳、50～59歳が多く、3割半ばとなっています。



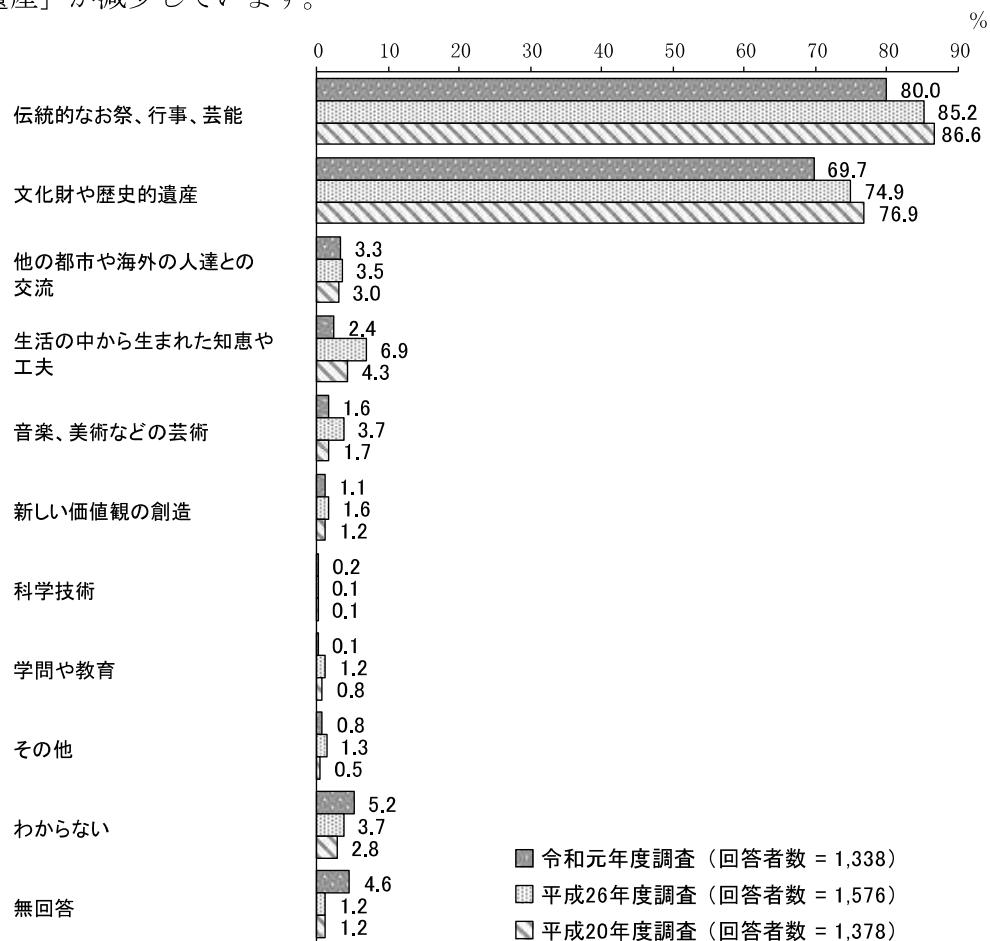
問12 「川越の文化」という言葉に対して、どのようなイメージを強くお持ちですか。
(2つに○)

「伝統的なお祭、行事、芸能」(80.0%)が8割と、最も多くなっています。以下、「文化財や歴史的遺産」(69.7%)、「わからない」(5.2%)の順となっています。



【経年比較】

平成 20 年度調査、平成 26 年度調査と比較すると、「伝統的なお祭、行事、芸能」「文化財や歴史的遺産」が減少しています。



【年代別】

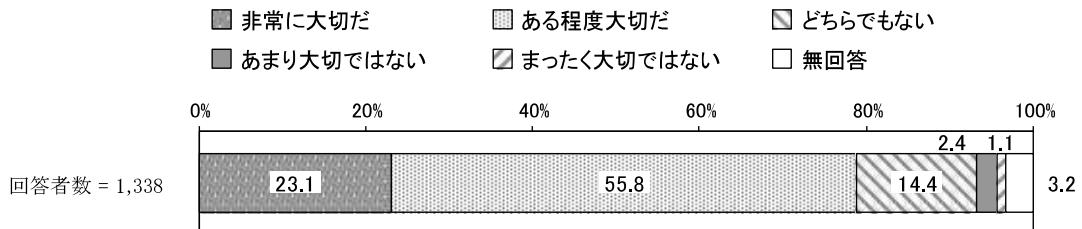
年代別でみると、全ての年代で「伝統的なお祭、行事、芸能」と「文化財や歴史的遺産」が上位2位を占めています。「伝統的なお祭、行事、芸能」と回答した人が一番多い年代は50～59歳(90.6%)、「文化財や歴史的遺産」と回答した人が一番多い年代は20～29歳(76.7%)です。

単位：%

区分	回答者数 (件)	音楽、 美術などの 芸術	伝統的な お祭、 行事、 芸能	文化財や 歴史的 遺産	他の 都市や 海外の人達 との 交流	知恵や 工夫	生活の中 から生ま れた	新しい 価値観の 創造	学問や教育	科学技術	その他	わから ない	無回答
18～19歳	8	—	100.0	62.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29歳	103	1.0	85.4	76.7	2.9	—	—	—	—	—	1.0	8.7	—
30～39歳	189	1.1	83.1	70.9	3.7	1.1	1.6	—	—	—	—	4.8	1.1
40～49歳	231	0.9	80.1	68.0	3.5	0.4	1.7	—	—	—	2.2	5.2	3.5
50～59歳	191	1.0	90.6	71.7	2.6	0.5	0.5	—	0.5	0.5	0.5	3.1	2.1
60～69歳	251	1.6	81.7	71.3	4.0	4.8	1.2	—	—	—	0.8	5.2	3.6
70歳以上	337	3.3	70.0	66.2	3.0	4.5	1.2	0.3	0.6	0.6	0.6	5.9	9.8

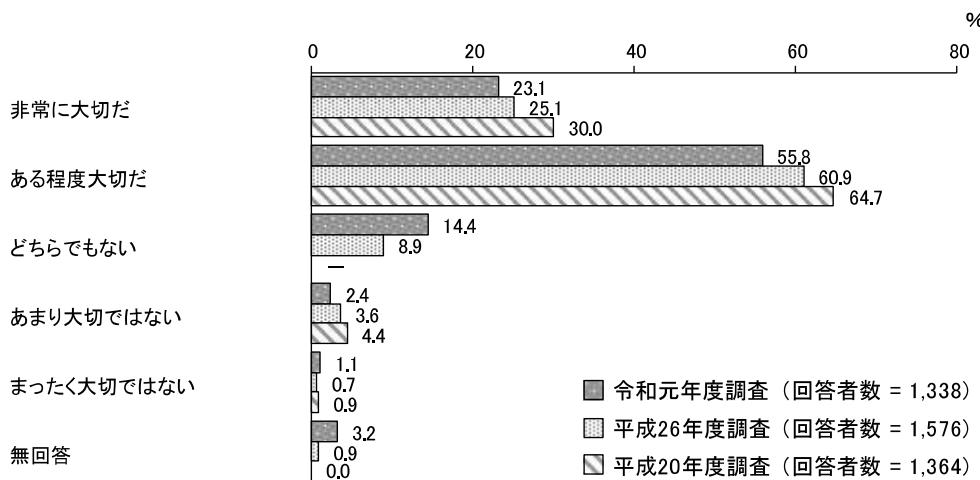
問13 あなたは、日常生活の中で、優れた芸術を鑑賞したり、自ら文化活動を行うことが大切だと思いますか。（1つに○）

「非常に大切だ」（23.1%）と「ある程度大切だ」（55.8%）を合わせた“大切だ”（78.9%）が8割近くを占めます。一方、「あまり大切ではない」（2.4%）と「まったく大切ではない」（1.1%）を合わせた“大切ではない”的割合は3.5%となっています。



【経年比較】

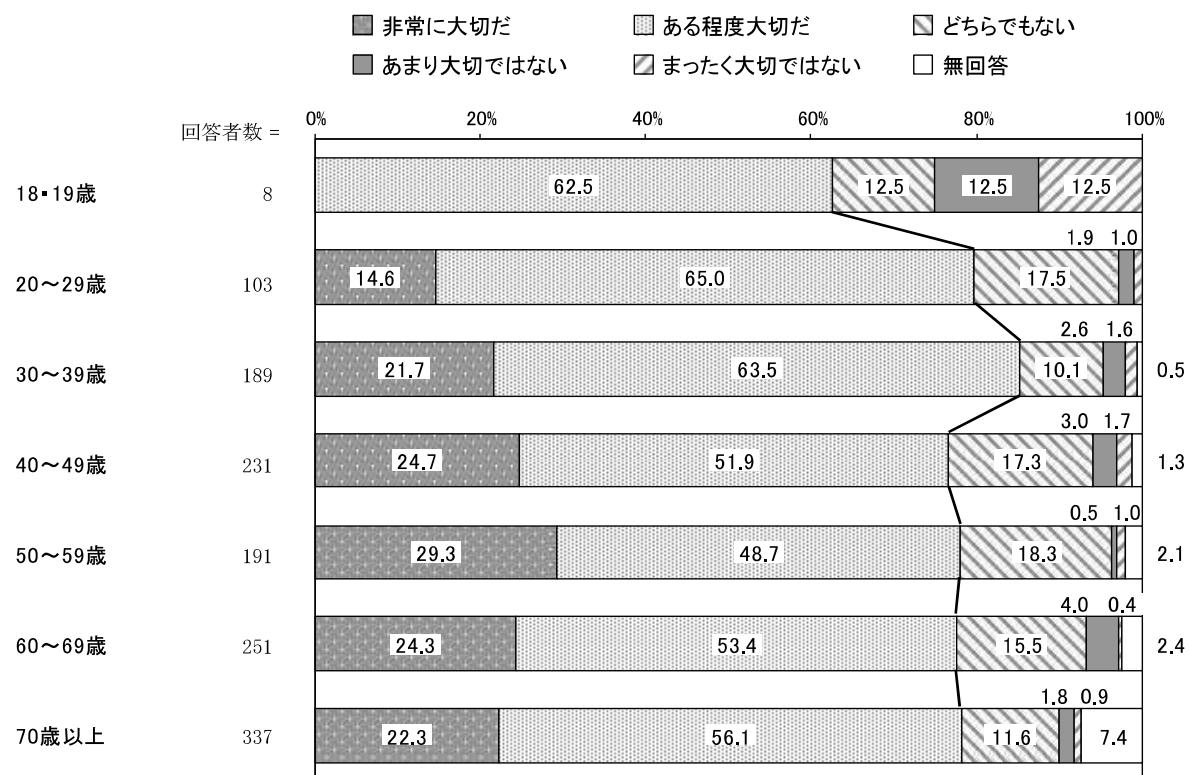
平成26年度調査と比較すると、“大切だ”的割合が減少し、「どちらでもない’の割合が増加しています。



※平成20年度調査には「どちらでもない」の選択肢はありませんでした。

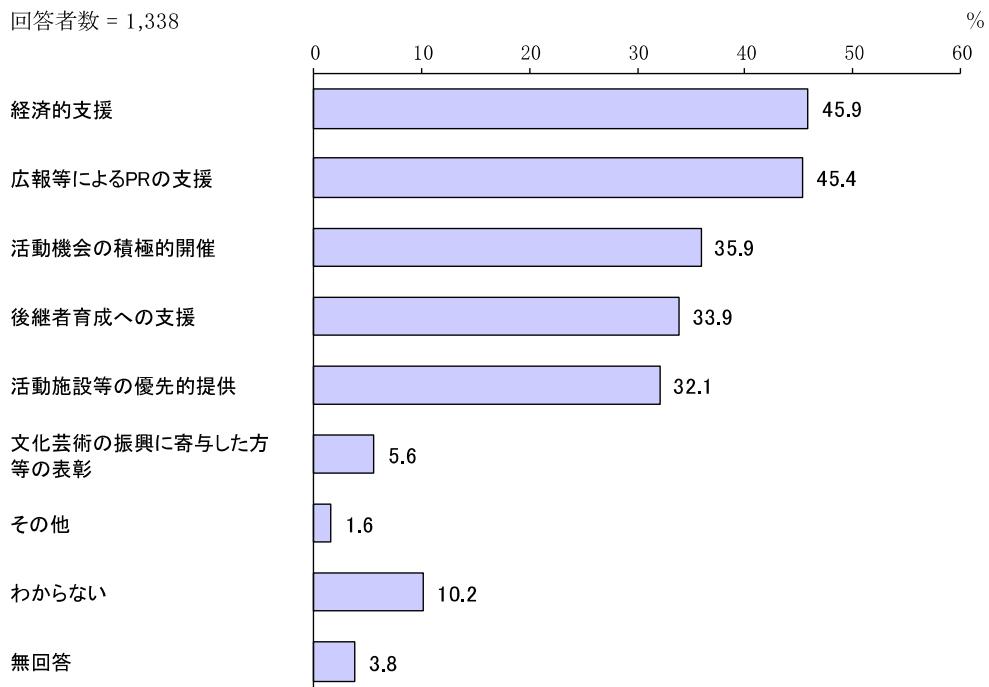
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30～39歳で“大切だ”(85.2%)の割合が高く、8割半ばとなっています。



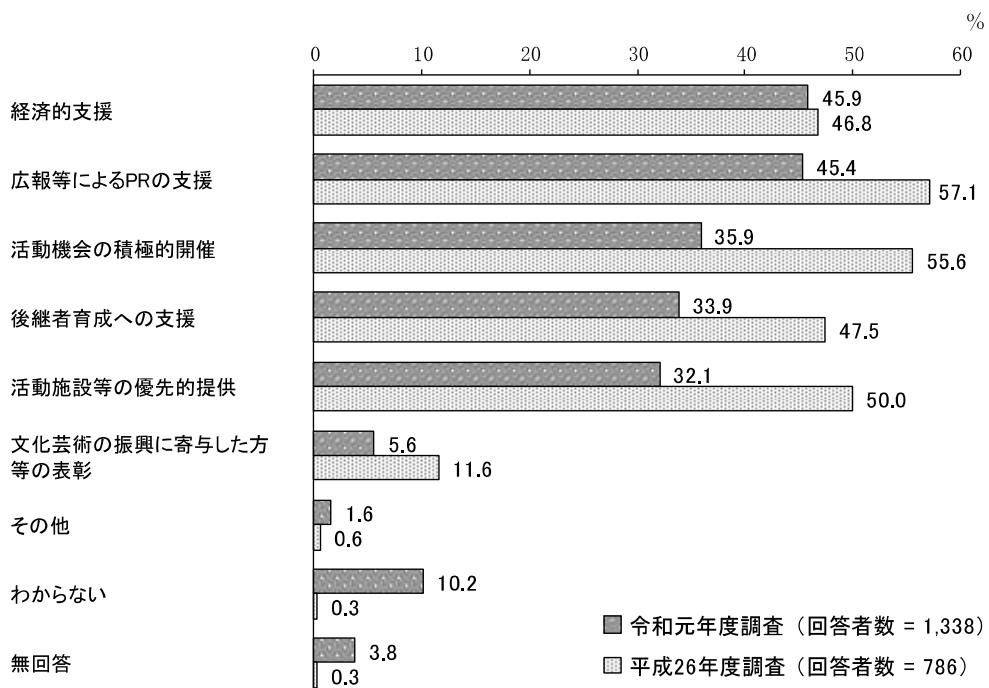
問14 市が市民の文化活動や市内の芸術家を支援するには、どんなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

「経済的支援」(45.9%)が4割半ばと、最も多くなっています。以下「広報等によるPRの支援」(45.4%)、「活動機会の積極的開催」(35.9%)の順となっています。



【経年比較】

平成26年度調査との比較は、設問の対象者が異なるため参考とします。



※平成26年度調査では、「芸術家等への支援が必要か」との設問で「必要だ」と回答した人のみが回答しています。

【年代別】

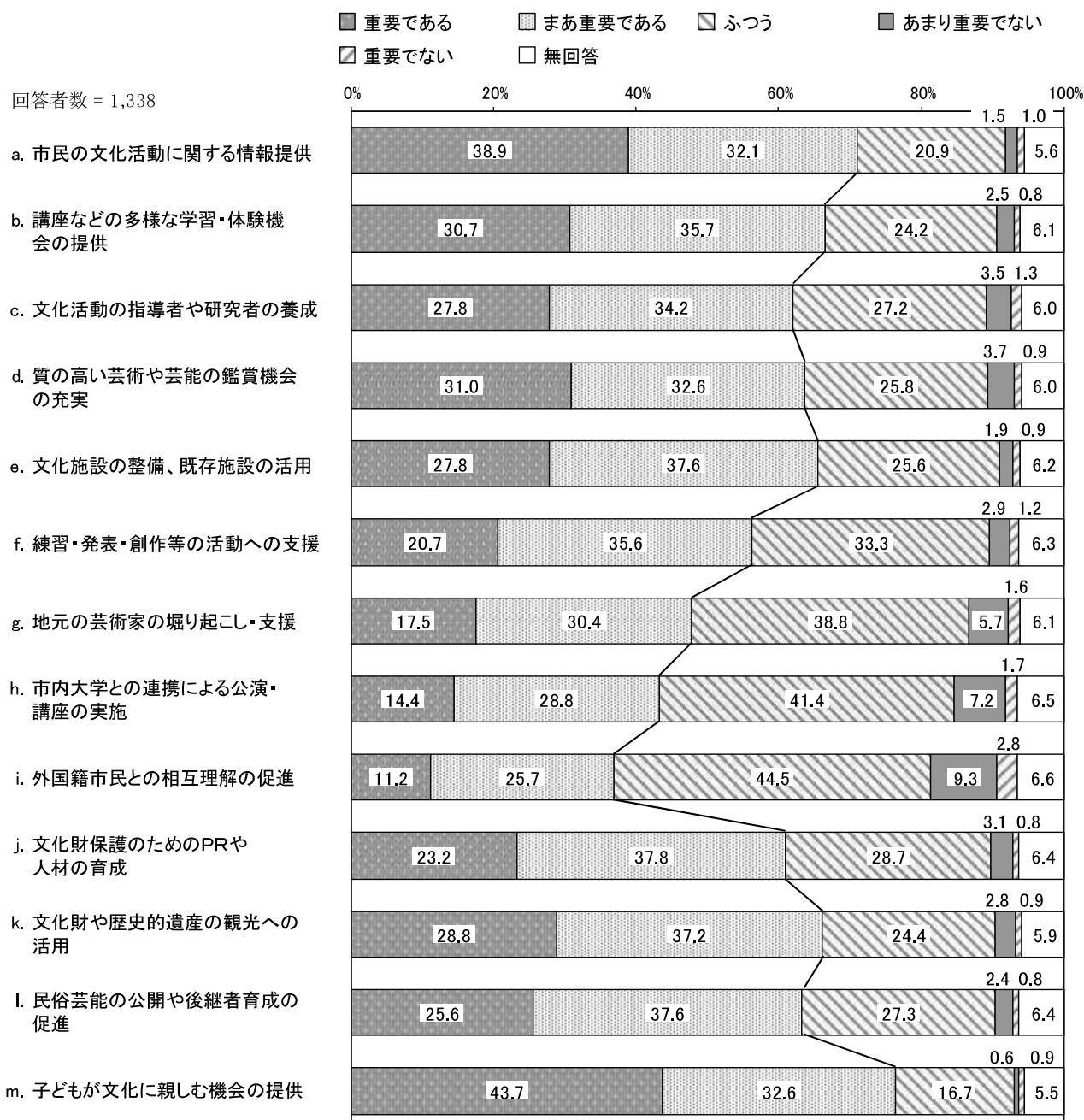
年代別でみると、いずれの年代も「経済的支援」、「広報等によるPR」が上位2位を占めています。20歳以上の複数の年代（20～59歳）で「経済的支援」が第1位となっており、60歳を超える年代では「広報等によるPR」が第1位となっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	経済的支援	活動施設等の優先的提供	広報等によるPRの支援	活動機会の積極的開催	後継者育成への支援	文化芸術の振興に寄与した方等の表彰	その他	わからない	無回答
18・19歳	8	37.5	25.0	50.0	25.0	37.5	12.5	—	12.5	—
20～29歳	103	55.3	25.2	48.5	43.7	21.4	9.7	1.9	8.7	—
30～39歳	189	50.3	34.4	50.3	41.3	34.4	5.8	1.6	7.4	0.5
40～49歳	231	48.5	30.7	46.3	35.9	34.6	4.8	1.7	10.8	1.3
50～59歳	191	52.4	34.0	47.1	45.0	40.8	5.8	2.1	8.9	1.6
60～69歳	251	41.4	33.1	41.8	35.5	31.5	4.8	1.2	13.1	4.0
70歳以上	337	38.9	32.0	43.3	26.4	35.0	4.7	1.8	10.4	8.6

問15 あなたは、文化活動をもっと活発にするために行う市の取り組みとして、次の各項目が、どれくらい重要だと思いますか。（それぞれの項目1つに○）

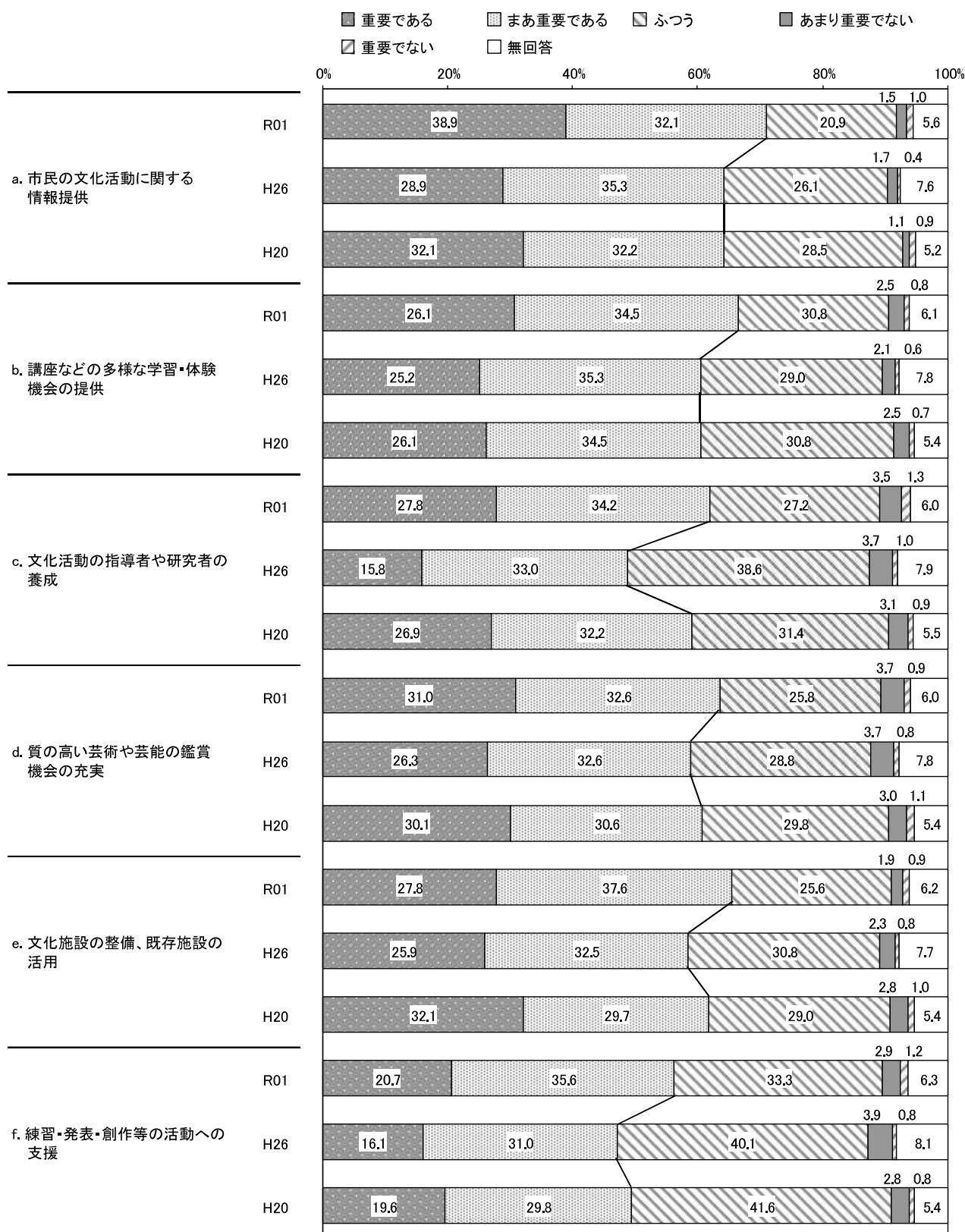
「m. 子どもが文化に親しむ機会の提供」で「重要である」(43.7%)と「まあ重要である」(32.6%)を合わせた“重要である”(76.3%)が多く、7割半ばとなっています。以下、「a. 市民の文化活動に関する情報提供」で「重要である」(38.9%)と「まあ重要である」(32.1%)を合わせた“重要である”(71.0%)、「b. 講座などの多様な学習・体験機会の提供」で「重要である」(30.7%)と「まあ重要である」(35.7%)を合わせた“重要である”(66.4%)の順となっています。



【市の各施策の重要度の経年比較】

『市の各施策に対する重要度』については、「重要である」と「まあ重要である」を合わせた“重要である”が平成 26 年度調査と比べて「c. 文化活動の指導者や研究者の養成」が 13.2 ポイント、「j. 文化財保護のための PR や人材の育成」が 10.1 ポイント増加している他、すべての項目で重要度が高くなっています。

「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた“重要でない”については、1 ポイント前後の増減であまり差のない回答となってます。



【市の各施策の重要度の経年比較（つづき）】

